第 45 回　世界遺産委員会開催に関して

（2022.6.19～6.30　ロシア　カザン→2023.9.10～25　サウジアラビア　リヤド）

世界遺産委員会は、21 か国で構成され、通常 1 年に 1 回開催される政府間委員会のこと。世界遺産リストの記載に関する審議や危機遺産リストの審議、世界遺産基金の用途の決定、登録遺産の保存状況の審査などを行う。

〇世界遺産委員会　議長国：ロシア
委員会の国々（21 か国）委員国の任期 6 年（自発的に 4 年での任期）
議長国　ロシア
ヨーロッパ・北アメリカ：イタリア（副）、ベルギー、ブルガリア、ギリシャ、メキシコ
カリブ・ラテンアメリカ：アルゼンチン（副）、セントビンセント・グレナディーン
アジア・太平洋：タイ（副）、インド、日本
アフリカ：南アフリカ共和国（副）、エチオピア、ルワンダ、マリ、ナイジェリア、ザンビア
アラブ諸国：サウジアラビア（副）、エジプト、オマーン、カタール

〇ビューロー会議　議長国：ロシア
　副：アルゼンチン、イタリア、サウジアラビア、南アフリカ、タイ
　書記：インド

Q1.　いつ次回委員会の場所と日にちが決まるのか？
前回の世界遺産委員会開催時に、場所と日にちが決定
第 45 回（2022）ロシア　カザンでの開催が決定したのは、2021 年の世界遺産委員会でのこと

Q2.　その後、場所の変更は出来るのか？
ユネスコでの手続き規則によると…
①21 か国のうち 2/3 が開催場所（議長国の変更含む）変更の希望を提出
または、特別会議を開き、半数以上の多数欠
②ビューロー会議のメンバーがユネスコの事務局長と話し合い、決定
→議長国がロシアである以上、開催地の変更は難しい

◆Open Letter　2022.4.8（ユネスコ事務局への公開書簡）
世界遺産条約加盟国　イギリスを代表とする 46 か国が世界遺産委員会へ公開書簡を送る
＜内容＞
①ロシア　カザンでの開催、ロシアが議長を務める委員会を 6/19～開くことは不可能である
②世界遺産委員会が、ロシアを議長国としたまま開催される場合は、参加をボイコットする
③世界遺産活動は、継続されるべきであり、とくにアフリカの遺産保護も必要であるため、世界遺産条約

50 周年を記念する委員会の延期を望んではいない
④世界遺産委員会が責任をもって、会場変更等を検討して欲しい

◆世界遺産委員会の 60 日前に告知（4/20）
　・会場、日にちに関して　　・簡単なアジェンダ

◆世界遺産委員会の 30 日前に特別委員会（必要に応じて）
→ユネスコ事務局　4 月 21 日正式に「無期限延期」を発表

◆2022.11.22　議長を務める予定であったロシアが世界遺産委員会に対し、辞意を表明
→事実上開催権の返上。世界遺産委員会の運営規則では、議長国名の英語アルファベット順で次番の副議長国を任命することとなり、これに従いサウジアラビアが引き継ぐこととなった。
（Russian Federation → Kingdom of Saudi Arabia →Republic of South Africa → Kingdom of Thailand →一巡して Argentine Republic → Republic of Italy）